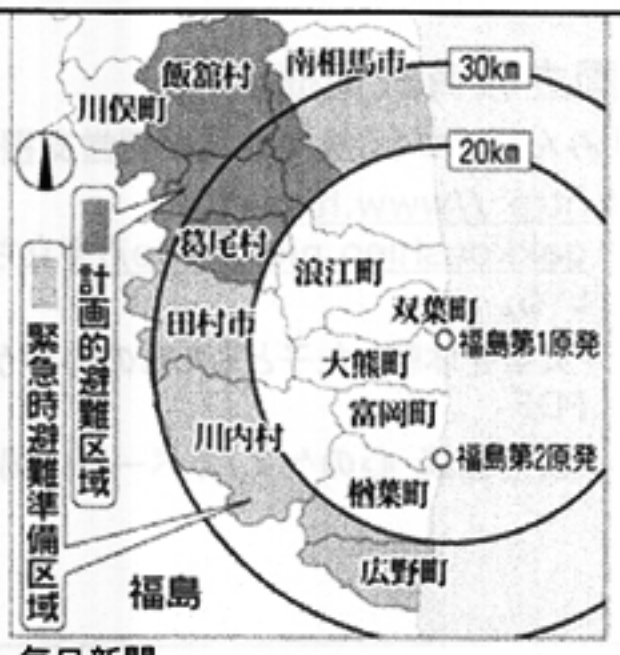
災害と再生

横浜国立大学大学院国際社会科学研究科
藤 森 立 男

fujimori@ynu.ac.jp

1



毎日新聞

2

3月　　11　12
大震災

13　14　15　16　17　18　19
原稿執筆 ⟶ 編集者打合せ

20　21　22　23　24　25　26
校正 ⟶ 脱校　印刷所

27　28　29　30　31　1
⟶ 配送・福島へ

3

教職員と保護者が知っておきたい

災害を体験した
子どもたちの心のケア

4

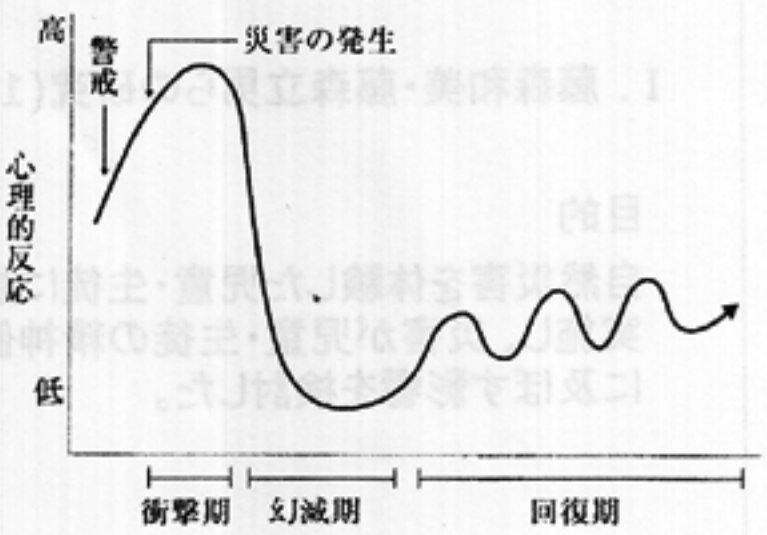


図. 災害回復曲線

5

浪江町の女性にわびる東京電力の清水正孝社長（毎日新聞, 2011年5月4日）

6

国立教育政策研究所

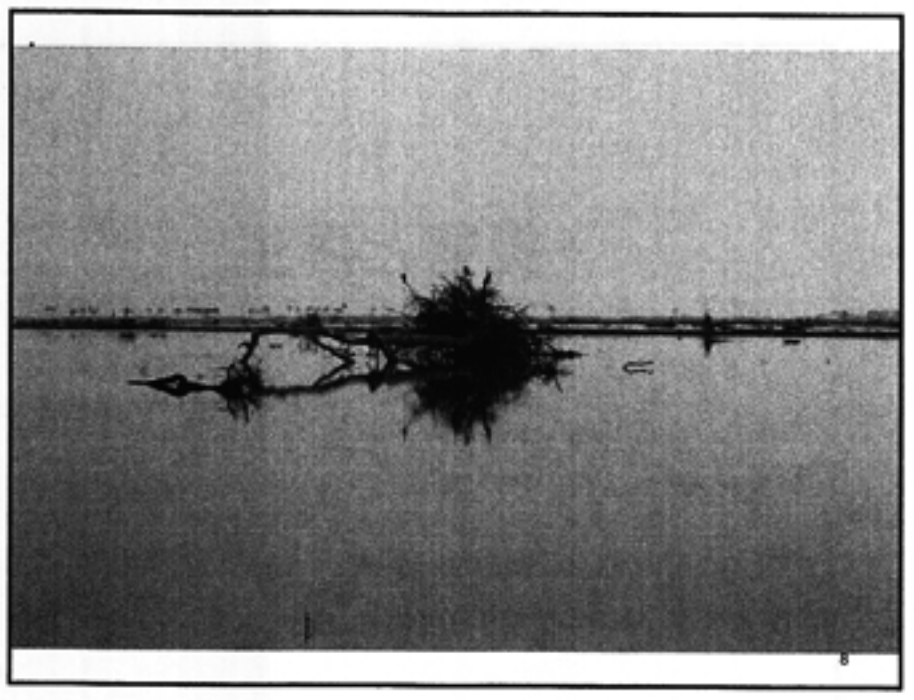
「みんなでつくる被災地学校運営支援サイト」

（ http://www.hisaichi-gakkoushien.nier.go.jp/）を立ち上げている。

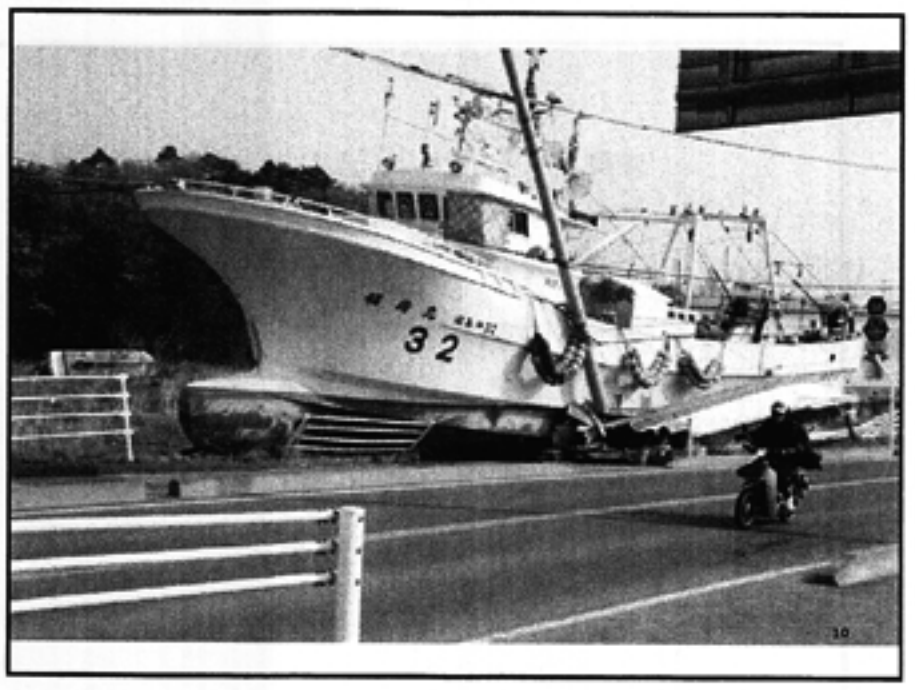
「災害を体験した子どもたちの心のケア」のPDF

「教育相談・心のケア」のページに掲載

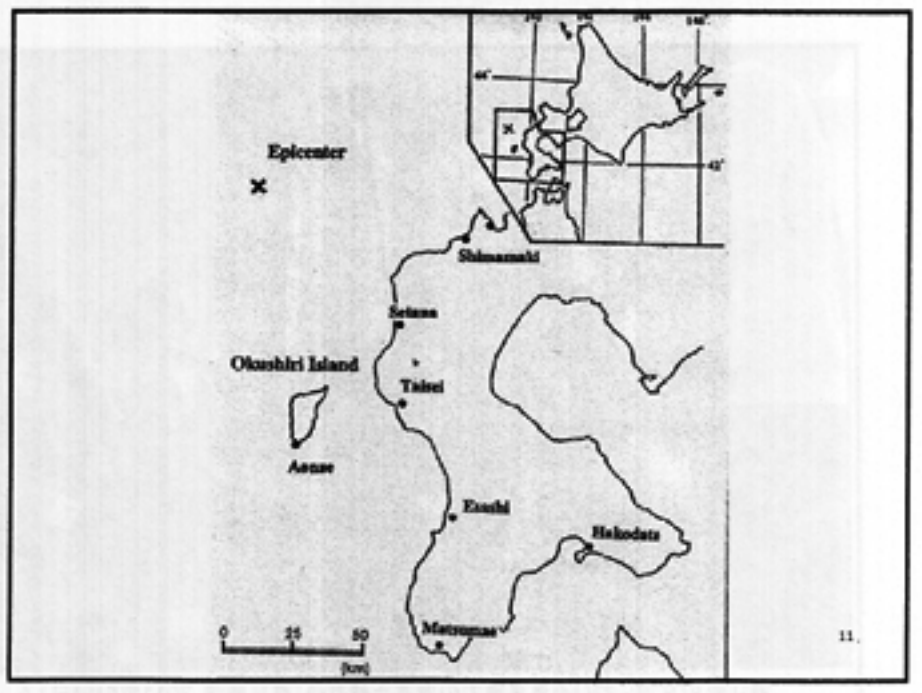
7



8



10



11

Ⅰ．藤森和美・藤森立男らの研究(1996)

目的

自然災害を体験した児童・生徒に調査を実施し、災害が児童・生徒の精神健康に及ぼす影響を検討した。

12

方法

①調査対象は小学生が青苗小学校と奥尻小学校の児童であり、4年生から6年生までの129人であった。

中学生は青苗中学校と奥尻中学校の1年生から3年生までの生徒であり、171人であった。

13

②教育委員会を通じて、小・中学校に調査の趣旨を説明し、協力の要請を行った。
調査は学級担任が実施した。

③子ども版・精神健康調査票を使用し、災害から1年7ヶ月後の1995年2月に実施した。

14

結果

被害状況によって、仮設群と自宅群に分類した。

仮設群：家族に死者がいたり、家屋が倒壊し、大きな被害を受け、仮設住宅に住むグループ

自宅群：被害がない、または軽度の被害しかなく、自宅で生活するグループ

15

仮設群が自宅群に比べ有意に高率の項目

【小学生の場合】

◆頭が痛い　50% vs 23%
◆勉強がうまく進まない　42% vs 21%
◆テレビを見ることが多い 90% vs 51%
◆家の人の手助けができていない90% vs 65%
◆元気に生活している　85% vs 62%

16

考察

被害の深刻な児童の方が心身の問題や社会生活上の変化が大きいにもかかわらず、周囲の期待に応えようとする様子が見られた。

⇩

災害後、元気に見える児童の姿に周囲の大人が安心し、注意や関心を払わなくなることは問題があることを示す。

17

Ⅱ．東日本大震災の 子どもたちのトラウマ

『つなみ　被災地のこども80人の作文集』企画・取材：　森　健
文藝春秋(2011年8月)

18

「つなみのせいで大切なものがながされました。 ・・・(中略)・・・つなみの色は黒っぽいつなみでした。くさかったです。」

仙台市　東六郷小学校2年
中村まいさん
(母と弟が津波に流され、失っている)

19

「その次の日、私はとても気持ちが悪い感じで起きました。のどはカラカラで、口の中は臭い感覚がありました。急いで水を飲みに行きました。しかし何はい飲んでも、だるさ・吐き気・へんな感覚は残っていました。」

石巻市　貞山小学校6年
佐藤　未夢(みゆ)さん
(1月後も、母と兄がみつからない)

20

「母に、『何か買ってあげる。』と言われても、今なにがほしいのか？　前は、ほしい物がたくさんあったのに、今はなにがほしいのか、わからないぼくがいた。」

釜石市　鵜住居小学校4年
黒沢　海斗(かいと)さん
(父は遠洋漁業で不在、母と裏山へ逃げた。
宮古市の小学校へ転校する予定)

21

Ⅲ. 心のケアのボランティア活動

団体名：下野課外活動支援隊

平成23年6月11日～7月29日

22

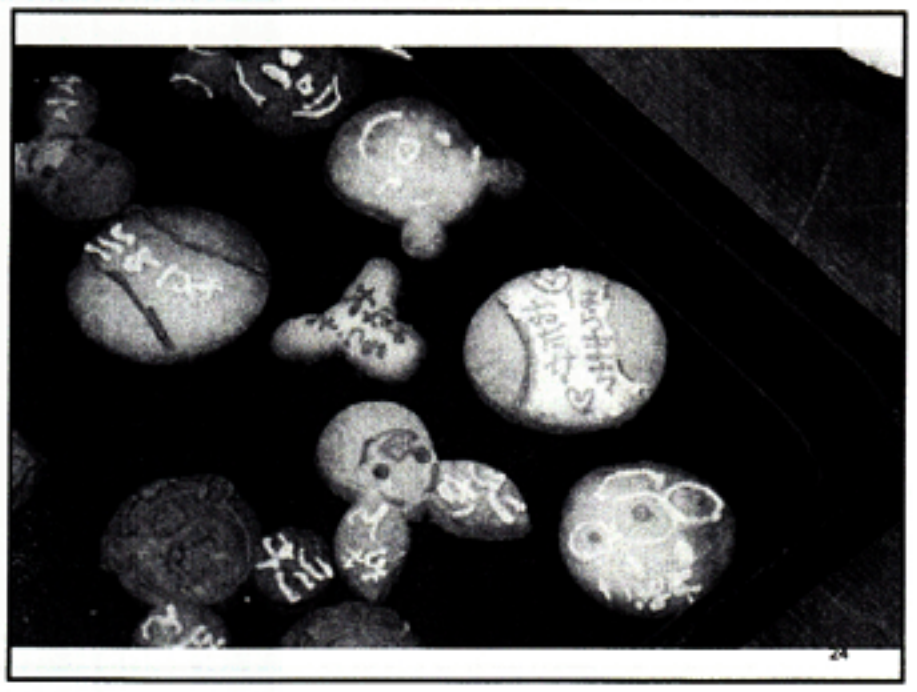
目的

トラウマを受けた子どもたちは自分の殻に閉じこもりやすく、孤立感をいだきやすい。

この悪影響を断ち切るためには、自分が受け入れられ、大切にされているという感覚を味わうことが重要である。

こうしたことから、課外活動を通じて子どもたちと周囲の大人たちが触れ合うことにより、子どもたちの心理的な支援活動を実施することを目的とする。

23



24

Ⅳ. 教訓を活かさない国

1. 吉村 昭の警告

(1)阪神・淡路大震災(1995)の発生時

兵庫県を中心に甚大な被害があり、6434名の犠牲者が出た。

「関東大震災の教訓が無視されている」

26

(2)『三陸海岸大津波(吉村 昭,2004)』

岩手県宮古市田老地区

1896年(明治29年)の大津波で死者1859名

1933年(昭和　8年)の大津波で死者 911名

このため、高さ10メートル、総延長2.4キロの大防潮堤を建設。

「過去の大津波は10メートル以上の波高の場所が多く、防潮堤を越すことはまちがいない」と大津波への備えを怠ることがないよう警告。

27

2.戸部良一ら『失敗の本質(1984)』の警告

第二次世界大戦時の日本軍の失敗事例を分析

①柔軟な思考を確保するための人事教育システムがない

②優れた者が思いきったことができる分権システムがない

③演繹的な発想(グランド・デザイン)に基づく強力な統合システムがない

↓

官僚組織には「自己変革能力」が欠如

日本政府の危機管理のまずさを予測

28

3.「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」の設置

委員長　畑村洋太郎・東京大学名誉教授

『失敗学』を提唱

委員長代理　柳田邦男・作家

『失敗の調査システムの確立』を提唱

①東京電力の抵抗・官僚の組織防衛による圧力

②「死と再生」をめぐる凄まじい争いが展開

→ 畑村と柳田の勇気ある挑戦に期待

29